

12.団地の中の子ども食堂さばんなかふえ

林鷹一

1.始めたきっかけと母体

始めたきっかけ：子どもが主体性を持ち、子どもたち自身でメニューを考え作る“子どもとつくる子ども食堂”を作りたかった。ご飯を作って、食べて、遊んで、工作したり、裁縫したり、もう一つの家、もう一つの家族のような場所になったら良いなという思いで始めた。

母体：特定非営利活動法人子ども NPO

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

○これまでの開催日時

さばんなかふえ 毎月第4日曜日 16時～19時半
4/22、5/28、6/25、7/23、8/27、9/24、11/26

マルチャンゴー 毎日
7/25

○食事メニュー

さばんなかふえ

4月22日 兜型のサモサ、ちらし寿司、たけのこの味噌煮、サラダ、オニオンスープ

5月23日 カレー、大根ときゅうりのサラダ、キャベツとしめじの卵炒め、ピーマンのくたくた煮、フルーツポンチ

6月25日 カレー、からあげ、サラダ、シャーベット

7月23日 焼肉、コロッケ、ゴーヤサラダ

8月27日 カレー

9月24日 炊き込みご飯、おはぎ、冬瓜のそぼろ煮、卵焼き、豚汁

11月26日 豆腐ハンバーグ、根菜スープ、フライドポテト、ナポリタン、プリン&ゼリー

マルチャンゴー

7月25日 ごはん、味噌汁、豆腐、サラダ、なすの漬物、エビの卵とじ

○食事以外のプログラム

さぼんなかふえ

4月22日 食材の運搬、職員の顔合わせ、厨房で料理の手伝い、放送による食堂への呼びかけ、鬼ごっこ、

5月23日 プレパークの後片付け、食材の運搬、鬼ごっこ、カードゲーム（ウノ）

6月25日 プレパークの後片付け、鬼ごっこ、テーブルゲーム（ジェンガ）、カードゲーム（ウノ）

7月23日 プレパークの後片付け、水遊び、鬼ごっこ、花火

9月24日 プレパークの後片付け、かくれ鬼、将棋、ままごと

11月26日 プレパークの後片付け、食材の運搬、だるまさんがころんだ、携帯ゲーム（3DS）

3.参加者

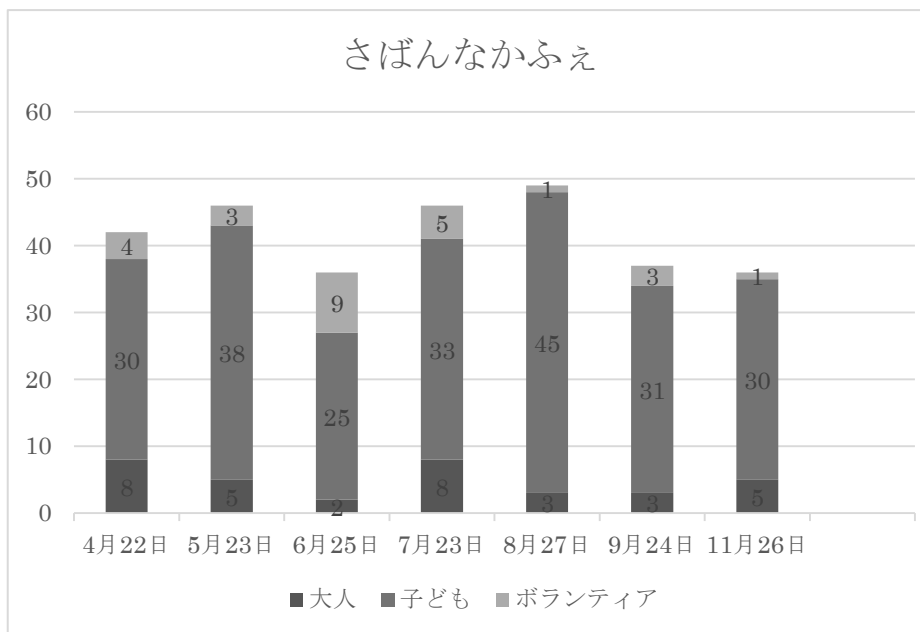


図 1 さばんなかふえ 参加人数

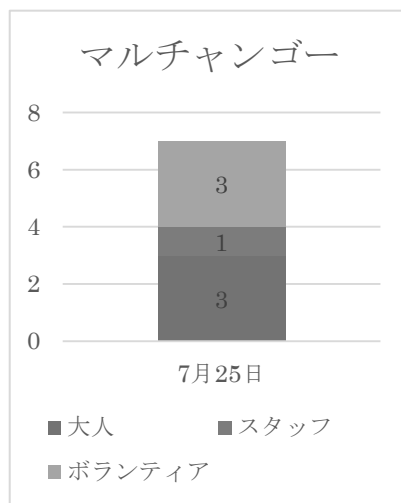


図 2 マルチャンゴー 参加人数

4.その参加者の主な居住地、学区など

ふれあいステーションもりのさとの住民
 (愛知県名古屋市長区森の里1丁目94)

5. こども NPO ならではの子ども食堂の長所や短所

- ・ 公営住宅の子どもたちを主な対象に子ども食堂だけでなく、プレパークや学習支援、居場所づくり事業など公営住宅内で重層的に事業を実施することで、子どもたちが家の近くに色々な形で立ち寄れる場を作ることができている所。
- ・ 子ども食堂自体は月に一回の開催であるため、いつでもそこに行けばいつもの人がいる場所ではない所。

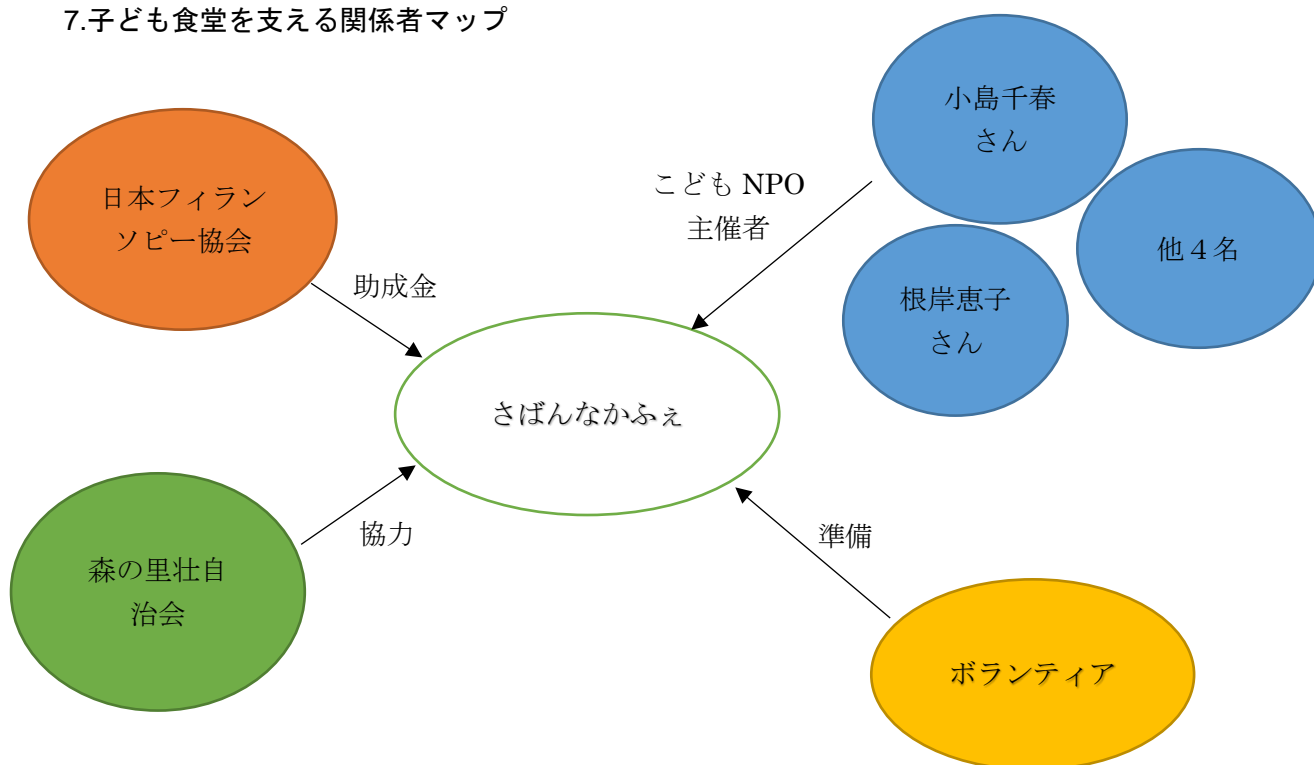
6. 子ども食堂が抱えている課題とその課題を解決するために行っている取り組み

さばんなかふえが抱えている課題は、資金調達とスタッフ不足の二つである。特に子どもたちと遊んだり話をしたりするスタッフが足りないという。また、夕方から夜にかけての開催なのでボランティアの参加が難しいという声もあったそうだ。

まず、資金調達の解決策は講演やウェブサイトなどで活動内容について発信し、事業を理解され寄付を募っている。

次にスタッフ不足の解決策として、学習サポート事業でサポーター登録している大学生に呼びかけている。

7. 子ども食堂を支える関係者マップ



8.子ども食堂に行って感じたこと

今回、参加させていただいた子ども食堂は、さばんなかふえとマルチャンゴの二つである。さばんなかふえには五回、マルチャンゴには一回それぞれ参加させていただいた。二つの子ども食堂に行くことで、似ている点や異なる点が見つかり、それぞれの良い点や改善点があった。

まず、二つとも共通して言えることは、子ども食堂という名前が付いているが、実際は子どもだけでなく老若男女、多世代の人が集まっているということである。そして、年齢関係なくみんな仲良く、和気あいあいとしていた。そして、職員の人たちもみな優しく、気軽に話せた。

さばんなかふえは、「ふれあいステーションもりのさと」という、かなり大きな団地の中心部にある集会所で月に一回行われている。そのため、団地内の人は開催日を回覧板等で知っている。そのため、参加するほとんどの人が団地の人だという。確かに子ども食堂に来ていた子ども達をみると、学年関係なく幼稚園児から中学生までみんな一緒に遊んでいた。お互いに呼び合っていた。団地特有の雰囲気はそこには流れていた。また、近所の農家や団地に住む人からたくさんの野菜やお菓子が提供されていた。

マルチャンゴは、さばんなかふえとはまた少し違った、子ども食堂である。ここは、平日の夜毎日開いており、店内は喫茶店のようなゆったりと落ち着いた雰囲気がある。マルチャンゴでは夕食を提供しており、夕食を食べた後は皆でトランプをやったり、テレビを見たり新聞を読んだり、一人一人が自由に過ごしている。また、マルチャンゴは常連客が多い。常連客は、小、中学生と高齢者がメインである。経営者である丸山さんも気さくで話しやすい。

また、それぞれ行って見て見つけた改善点があった。

さばんなかふえの場合は、五つある。

一つ目は、「いただきます」をみんなでやらない事だ。12:00頃になり、お昼ごはんが来ると、最初に厨房で作っていた人たちが「ご飯出来たよ」というだけで、あとは子ども達が勝手に盛り付けをして食べてゆく。そのため、お昼を食べるタイミングがバラバラになっていた。中には「いただきます」すら言わない子もいた。なので、しっかりとみんなを席につかせて一斉に「いただきます」を言ってから食べるようにするべきだと思った。

二つ目は、職員の名前が分からないという事だ。分からない事があった時に、聞きたくても名前が分からないという状況に何度か遭遇した。また、子供たちもイマイチ名前が分からない人がいるらしく、「ねえねえ誰？」と呼ぶシーンを見かけた。だから、職員全員に名札を首から下げ、一目見て誰か分かるようにする必要があると感じた。

三つ目は、目を離したら危ない子がいるということである。他の子の手を踏んだり、我々ボランティアを蹴ってきたりする危ない子がいた。また、言葉遣いの面でも気になった。特に女子の言葉が汚いという印象を受けた。こういった子には、普段は優しく接する、でもいけない事はしっかり叱るという区別をはっきりしていくべきだと感じた。

四つ目は、どろどろになった子の対応である。外で、水遊びなどをしてそのまま集会所に入って来てしまうと、集会所の床が濡れたり、汚れたりしてしまう。そのため足を拭く雑巾を玄関に置いておく必要があると感じた。

五つ目は、花火等の火気の取り扱いである。夏になると、広場で花火大会を行うが、大人の数に対して子どもの数が圧倒的に多かったので、次回以降は何かしらの対策を練らないと事故が起きてしまうと感じた。

マルチャンゴーは二つある。

一つ目は、立地があまりよくないということである。最寄駅からは比較的近い距離にはあるものの、少し入り組んだところにあるため、見つけづらい。実際、初めて行ったときは迷ってしまった。なので、近くに目立つ看板を設置するなどの工夫が必要だと感じた。

二つ目は、もっとたくさんの人に利用してもらうようにすることである。マルチャンゴーは常連客ばかりなので、常連の方が友だちを誘って一緒に来てもらえば、たくさん利用してくれると思った。

さばんなかふえもマルチャンゴーもそれぞれ良いところはそのままにして、よりよい子ども食堂になっていければいいと思う。